

職能科通信 63号

2026年2月発行

職能科通信

検索

〒243-0121
神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県リハビリテーション病院
職能科
TEL&FAX 046-249-2571

【高次脳機能障がいセミナー就労編 研修報告】

2025年度高次脳機能障がいセミナー就労支援編「就労に向けた支援 ～本人支援・家族支援・連携支援について～」を2025年1月24日に開催いたしました。高次脳機能障がいの症状により、自己評価と他者評価に大きな差が生じる場合、就労を継続することが困難になる場合があります。そうした状況を防ぐために「本人支援」「家族支援」「連携支援」という3つの支援が重要となります。今回のセミナーでは、「本人支援」は職能科から、「家族支援」は当院ソーシャルワーカーからお話しをさせていただき、「連携支援」は障がい者就業・生活支援センターサンシティ様からご講演をいただきました。事例検討会では、サンシティ様と連携させていただいた症例を基に、各グループで検討を行っていただき支援方法の共有を行いました。受講された方から、高次脳機能障害者への支援は難しく悩むことが多かったが、今回のセミナーで家族との関わり方や連携の必要性を感じることができたと好評をいただきました。

今後も安定した就労の継続を支援するために、本人、家族、支援者と連携していきたいと考えています。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。
(作業療法士 露木拓将)



【高次脳機能障がいセミナー実務編 研修報告】

2025年12月13日(土)、神奈川工科大学ITエクステンションセンターにおいて、地域リハビリテーション支援センター主催の高次脳機能障がいセミナー実務編が開催されました。今年度のテーマは、「社会的行動障害」で医療、福祉、就労支援機関から多職種が参加し、活発な学びの場となりました。私は職業指導員の立場から社会的行動障害に対する症状に応じた支援について講義を担当しました。入院生活、在宅生活、社会参加、就労といった各ステージで安定した生活環境を築くことの重要性についてお話ししました。また本人、家族、支援者が共通理解を持ち同じ方向を向いて支援を進めることが長期的な生活の安定につながることも強調しました。

今後も地域の支援者と連携しながら社会行動障害の理解促進と支援の質向上に貢献できるよう継続して取り組んでいきたいと考えています。
(作業療法士 増子寿和)



【日本作業療法学会 発表報告】

2025年11月7日から9日まで香川県高松市内で開催された第59回日本作業療法学会に参加し、「再発の不安と復職への焦りが強く聞かれていた脳卒中症例への介入～作業療法士としての支持的な関わり～」についてポスター発表を行いました。発表後には、多くの方々と活発な意見交換ができ、他院での支援の実際や課題を共有する貴重な機会となりました。

今回の学会では作業療法士が障害者就労支援に関わった演題数は非常に少なく、特に当科のように入院から外来まで切れ目なく関わり職業リハビリテーションを実践している施設は全国的にも多くないことを改めて感じました。今後も当科での取り組みを整理し学術集会などで積極的に発表を続けていくことで、作業療法士が職業リハビリテーションに関わる意義を広く伝え裾野がさらに広がるきっかけとなるように努めていきたいと考えています。（作業療法士 増子寿和）

第59回日本作業療法学会に参加し、「高次脳機能障害者が職場でリハビリテーション訓練を行い復職した事例～気づきを促し対策を検討する復職支援～」についてポスター発表を行いました。失語と記憶障害がみられていた症例に対して、職業準備性に基づき退院後の生活の安定を図り、通院や通所など社会参加活動を行い、復職前に職場で訓練を行う当院の「職場内リハビリテーションプログラム」を実施した内容を報告させていただきました。入院から復職まで時期に合わせた段階的な目標を作り、目的に合わせた気づきの支援を行うことで、対策と職場へ依頼する配慮事項をまとめることができ、復職することが出来ました。本症例で得られた貴重な経験を本学会で発表できたことは非常に有意義だったと思われまます。引き続き、高度専門性を持って情報発信に努めていきたいと思ひます。

（作業療法士 露木拓将）

【高次脳機能障害学会学術総会 参加報告】

2025年11月14日（金）～15日（土）までウイック愛知（愛知県産業労働センター）にて、第49回 日本高次脳機能学会学術総会が行われました。今回は「能力共創～他職種で拓く高次脳の未来」とし、幅広い病態を対象とし、年齢層も多岐にわたる方々の社会参加をしていくためには「生活」と「社会」をつなぐ支援をしていくことをテーマに開催されました。

高次脳機能障害に関する様々な発表やシンポジウムが行われ、多彩な教育的プログラムも実施されました。高次脳機能障害患者の急性期から退院後の在宅生活までを連続した流れとして捉え、評価から治療・再統合までの包括的アプローチを探求します。

入院時からの多職種連携や在宅復帰後の生活環境調整、専門職の役割や、ICT・遠隔リハビリなど様々な手法を用いて、患者一人ひとりに寄り添った質の高い継続したケアの重要性を共有できました。包括ケアの中での就労支援の役割や、他部門との連携について、再確認でき今後の支援へ役立てていきたいと感じました。（作業療法士 奥山真由美）

【職員募集のお知らせ】 当院ホームページよりお申し込みください

「職業指導員（正規職員、契約職員）」

…当院入院・外来患者さんおよび障害者支援施設利用者さんへ就労支援を行います。特に就労移行支援事業所等での就労支援のご経験のある方、社会福祉士の方お待ちしております。